

令和5年度 田村市における取組

I はじめに

本市には、公立の保育所が2園、幼稚園が3園、保育所と幼稚園が同一施設内にある認定こども園が2園ある。保育所は0～3歳児、幼稚園は4・5歳児、こども園は0～5歳児が在園している。他に、私立保育園が1園、私立認定こども園が1園あり、主な幼児教育施設は計9園で、公立小学校が7校ある。

昨年度まで本市では、中学校区ごとに保幼小中一貫教育を推進してきており、より一層連携の強化を図るため「保幼小連携推進委員会」を設置し、年2回の幼児教育を中心とした研修会を行ってきた。しかし、交流や研修会止まりで効果的な幼小接続とまでは至らずにいた。そこで、今年度から、幼児教育の質の向上や幼小連携の充実を推進すべく、幼児教育施設所管課のこども未来課と連携しながら、市教育委員会主催での合同研修会や公開保育を実施することとした。

3年計画の1年次である本年度、「幼児教育の質の向上」においては、幼児教育の基本となる遊びを通した学びを視点に0歳児からの育ちの連続性を再確認しながら、小学校教育への効果的なつなげ方を探ることとした。また、「幼小連携の充実」においては、架け橋期のカリキュラム作成を見据え、相互理解を進めるため保育参観を通した協議や情報交換の機会を増やすこととした。

II 幼児教育の質の向上に向けて

【未満児保育の充実をめざして】 ※0歳児～3歳児

この数年、0歳児からの遊びを見直すため、市内各園では、園内研修において環境の構成の在り方について話し合いを続けてきた。これまでの未満児保育では「自分でできるようになること」を重視しがちであったが、令和以降その保育を見直し、一人一人の「やってみたい」につながりそうな環境の構成や援助について検討してきた。今年度は公開保育を通して、各園での取組を共有し合い、各園での保育実践につなげてきた。以下、本年度に2回実施した未満児保育の公開について紹介する。

7/21（金）※市内公開
公開園 滝根保育所
テーマ 0～3歳児の遊びを支える
保育環境の工夫
参加者 市内9園から32名
午 前 保育参観
午 後 グループ協議



午前中の保育参観では、それぞれの幼児が保育室や園庭、テラス等、好きな場所で生き生きと遊ぶ姿が見られ、保育者も連携しながら個々の遊びを支援した。

午後の研修会では、五感を生かして遊べるように発達段階に応じた素材や環境の構成について話し合った。ものだけでなく人も環境であること、環境を工夫することで幼児の活動が広がること、保育者の見取りが次の保育につながることを再確認した。

9/1（金）※県中地区公開
公開園 常葉保育所
参加者 48 名
テーマ 0・1・2 歳児の遊びが豊かになる環境づくり
午 前 保育参観
午 後 グループ協議

発達段階に応じた砂遊びや水遊び等の外遊びの様子を中心に保育を公開した。一人一人が夢中になって遊び、心と体を使って取り組みたいことを楽しんでいる姿から個々の満足感が感じられた。

午後の協議会では「未満児の保育」について意見交換するとともに、日々の保育における悩み等についても話し合った。

公開は保育改善の途中段階、進化の過程であり今後も各園の研究を通して保育の質を高め改善していくことの大切さを確認する公開保育となった。

【保幼接続交流～プレ幼稚園～の公開】

本市の公立園は3歳児までが保育園、4歳児から幼稚園に通うようになる。そこでその段差に着目し、環境や雰囲気になれるための保幼交流として「プレ幼稚園」を実施している。

11/8（水）※中通り地区公開
公開園 常葉幼稚園（3～4 歳児）
※常葉保育所と常葉幼稚園の交流
テーマ 保育所と幼稚園の学びをつなぐプレ幼稚園の実施
参加者 71 名
午 前 保育参観
午 後 グループ協議

保育所の3歳児を乗せたバスが幼稚園に到着。はじめは固定遊具で遊ぶ姿が多かったが、それぞれの気付きや興味関心から自分の取り組みたい遊びを見つけて4・5歳児の遊びに自然と溶け込んでいった。

接続の課題は幼小間のみでなく、各年齢や園と園の間にもある。それをどのように捉え、円滑な接続にしていけるかが大切であることを確認した。

<小学校内に設置されている幼稚園の公開>

1/24（水）※市内公開
公開園 滝根幼稚園（4～5 歳児）
テーマ 園児の遊びの見取り
参加者 園・小中学校 26 名
午 前 公開保育
午 後 グループ協議、伝達講習



園児の遊びの見取りと保育者の関わりについて協議し、伝達講習では幼児教育の最新の動向について学んだ。

今年度は「0・1・2 歳児の発達と遊び」「3歳児及び4歳児の発達と遊び」について協議してきた。それを踏まえ、今回は、4・5歳の遊びに視点を当て、遊びの様子から見取ったことを次の保育の環境構成や援助等にどのように生かしていくかについて検討した。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

4/27（木）

市幼稚園教諭等・保幼小連携推進委員会合同研修会

内 容 ・ 架け橋期の学びをつなぐモデル地区実践研究事業の説明
・ 研修「幼児期の学びをその先の教育に生かす」

参加者 園小中から 32 名



ふくしま幼児教育研修センターより指定を受けた「架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究」について共通理解を図るために、市内説明会を行った。

また、幼児教育をその先の教育においても効果的に生かしつなげていくために、幼児教育についての理解を深めるため研修を行い、幼児期おける「遊び」の重要性と保・幼・小・中の連携の必要性について確認した。

10/16（月）

市幼稚園教諭等・保幼小連携推進委員会合同研修会

内 容 ・ 幼児期教育と小学校教育の接続の充実のための取組についての中学校区ごとの話し合い

参加者 市内園小中学校から 39 名



中学校区ごとに保・幼・小・中の連携を推進するために、以下の内容について協議した。

- ・ 今年度における幼児教育に関する研修や公開保育等の取組の共有及び経過報告
- ・ 現在の保幼小中の連携に関する取組状況の確認
- ・ 次年度の保幼小中連携に向けて目指したい子供像について

中学校区ごとに話し合うことで、今まで連携が進んでいなかった私立保育園、認定こども園とも交流の計画を立てることができた。

1/25（木）

保幼小連携推進委員会・市幼小連携・小中一貫教育推進会議

内 容 架け橋期のカリキュラム作成に関する研修

参加者 市内園小中学校から 32 名

保幼小連携推進委員会では、今年度の地区の幼児教育について振り返り、次年度の本市としての取組の方向性を確認した。

次年度から着手する架け橋期のカリキュラム作成に向けた組織の確認と、推進計画について話し合った。

【入学1か月前の年長児の姿】

1か月後の小学校入学を見据え、年長児の園での遊びの様子を共有するため、市内各園で年長児の遊びの様子を同時公開した。小学校のみではなく、中学校の先生方も参観対象とした。

3/5（火）

◆市内公開保育（市内幼稚園・こども園）※6園公開（5歳児）
参観者 小・中学校 11校 40名

◆保幼小連携推進委員会

参加者 13名

内 容 次年度の組織確認
次年度の推進計画



3/27（水）

◆保幼小連絡会

参加者 年長児担任
新1年担任

午前中は市内各園の5歳児の遊びの様子を公開し、小中学校の教員が自分の学区の園を参観した。10の姿の視点で捉え園と共有する機会となった。午後は、次年度の組織や推進計画について確認した。また、幼児期における遊びの重要性とともに各園の指導要録も含め小学校との共有すべきことについて、目的や方法、内容等について再確認した。

新1年担任予定者が幼児の実態を踏まえて新年度をスタートできるように、今年度の年長児担任から、実際の遊びをもとに10の姿から見た幼児の育ちや、今年度の取組、出来事等を小学校教員に伝え幼小での情報の共有化を図った。また入学後の連携・協力等の重要性について確認した。

Ⅳ おわりに

本実践研究の指定を受け1年目が終わった。今年度は市内の公立園だけでなく、私立の保育園、認定こども園とも連携し、互いに保育を見合い、取組を共有し合いながら一緒に研修を進めることができたことが大きな成果であった。また、この数年各園が進めてきた保育改善について、保育参観を通して共有し合い、0歳児からの遊びを通した学びがその後の育ちにどのようにつながっていくのかを実際の保育場面を通して確認することもできた。今後も園同士の横のつながりを深めながら、さらに市内の小学校との縦のつながり方を模索し、効果的な接続の在り方について研究を進めていきたいと考えている。

そこで、次年度は、「保幼小連携推進委員」を中心に、市内の各園・小学校を1年間かけて相互参観しながら、架け橋期のカリキュラムについて話し合っていく予定である。各園での遊びの様子とともに、小学校入学後の学校生活や交流している様子を共有し合いながら、様々な場面における本市の子供達の実際の育ちや学びの姿を通して「架け橋期の教育の在り方」について検討していく。その際、10の姿を手掛かりに話し合いを進め、互いの思いを尊重するとともに、共通の思いを持つことも大切にしたい。そして、目の前の子供達に寄り添う気持ちを大事にしながら、子供達の将来に向けて、目指す子ども像を一緒に見つけていきたい。

今後も、計画的・継続的かつ効果的な研修により、幼児期の学びを小学校以降の教育に生かしていくことができるよう保幼小中での共通理解を深めながら取組状況を発信し、地域や保護者も含め本市全体で、子どもの学びを支えることができる田村市でありたい。